

令和2年度 国語科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

□ [1 学年]

認知能力検査の結果では、言語能力（語彙の力や文を構成する力）が平均をやや上回っている。一方で、学習に向かう力のなかで、「学習をするとき、友だちと励まし合ったり、教えあったりする」の項目が全国平均を下回っている。

□ [2 学年]

認知能力検査の結果では、言語能力（語彙の力や文を構成する力）が平均を上回っている。また、学習に向かう力のなかで、「授業では、自分の考え以外にも、他の人の考えも知りたい」の項目が、全国平均を上回っている。

□ [3 学年]

7月と9月にそれぞれ実施した学力テストでは、2回とも全国平均をやや下回っている。領域別で見れば、どちらも「文学的文章の読解」が高得点なのに対し、「説明的文章の読解」の得点率が低い。特に「内容の理解」と「要点の理解」の正答率が低い。

②課題

□ [1 学年]

認知能力検査の結果から、学習の時に他者と協働し、学び合うことに課題がある。また、授業の中で協働解決の場面を設定した時に、一部の生徒の意見のみで話し合いが完結してしまう場面が多いことが課題である。

□ [2 学年]

認知能力検査の結果から特に課題は見当たらなかったが、定期考査において、自らの考えを書く問題の正答率が低かった。日常的にグループ学習などで他者の意見を聞き、話し合っていくことは繰り返し行っており力が付いている一方で、自分一人でじっくりと課題を解決したり、考えを書いたりする力に課題がある。

□ [3 学年]

学力テストの結果から、説明的文章の内容理解や要点理解に課題があることが分かる。文章を正確に読み、内容を的確に捉える力が不十分である。また、定期考査では、筆者の意見を踏まえて自らの考えを書く問題の正答率が低かった。筆者の主張を捉えること、そしてそれに対して自分の考えを書くことに課題が見受けられる。

③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

□ [1 学年]

これまで以上に、授業の中に協働解決の場面を意図的に設定していく。また、その際には司会、書記、発表等の役割をローテーションさせ、話し合いの質を高めていく。

□ [2 学年]

グループ学習の前に、自分一人でじっくりと課題に向き合う時間を設定する。また、自分の考えていることについて制限字数を設けながら書かせることに繰り返し取り組んでいく。

□ [3 学年]

都立入試型の二百字作文に繰り返し取り組んでいく。そのことによって、筆者の主張を捉え、それに対して自分の考えを書くことを徹底的に鍛えていく。また、文章の単なる内容把握だけでなく、段落やまとめごととに要点を捉えさせ、例えば小見出しをつけさせたり、制限字数内にまとめさせたりするなどを繰り返し行っていく。